

# 6000 かがわら版

発行 吉前町郷土史研究会 吉前町郷土資料館 平成24年11月

作家 三浦綾子さん

## 吉前町はゆかりの地

〜両親の居住地は竹内さんの横〜

前回も紹介しましたが、三浦さんの父親の堀田鉄治さん、母親のギサさんは吉前町出身、町内には墓も残っており親戚もいる。三浦さんは「草のつたの中」で、小学四年の夏休みに、吉前に遊びに行きたと思い書き記している。

## 愛は忍ぶ

生まれ初めて初めて海に足を浸し、沖に浮かぶ天売、焼尻島が眉毛島と呼ばれることを教わったり、吉前で映画を見た記憶、いんげんの触れ合いなどが感性豊かな表現でつづられている。このほかにも「天北原野」や「嵐吹く時」などの作品でも吉前は度々登場する。

三浦(奈泊)の竹内ミチ子さんの夫である故哲男さんの母親の姉の夫が、三浦綾子さんの母親キサさんと兄妹であり、綾子さんと哲男さんが生前交友があったこのこと、また堀田鉄治さんが居住していた場所は竹内家隣の空地であったこと。

また、五十年前になるけど綾子さんが懸賞小説「氷点」で入賞した後、両親の住んでいた場所を確

認のため、車三三台で三豊に見え、元吉前郵便局長の太田龜吉さんが薪を切っている所に来ていろいろ話を聞いていかれたというごとも竹内ミチ子さんはとてもいい話してくれました。

綾子さんの夫であり「三浦綾子記念文学館」の館長の三浦光世氏から九月二十八日開館記念の特別展への協力に対し礼状が届いた。

平成二十五年に三浦綾子記念文学館十五周年記念特別展「天北原野」の開催にあたり、現地調査資料収集聞き取り調査にひこかたならぬお世話になりましたという内容。

郷土資料館では三浦綾子さんの資料といえは「愛は忍ぶ」という色紙一点のみで、他に資料が無いことから三浦綾子記念文学館のご好意で関連資料の提供をしていただくことを確認し、来年資料館で特別展を開催する予定です。是非ご覧ください。

## 小樽に資料があった



九月二十七日、小樽市の金室寺に吉前町の十面観音像にまつわる資料があるというご報告。郷土史研究会の松岡満雄、泉泰仁、事務局の助石静治の五人が金室寺所蔵の各種古文書の閲覧、写真撮影と同寺の西山寛純住職と懇談した。

前回のかがわら版でも紹介しましたが、昨年十面観音像を役場ロビーで展示した折、新聞記事で知った小樽市の金室寺の住職西山寛純氏が役場を訪れ、古文書の提示をしてくれたのがきっかけとなり、本格的調査を申し込み今回の実施にいたった。

なお、西山住職の祖父が、もともと吉前の人館者四五〇人越すことこの人館者は四五七三人、資料館オウソンの年に次ぐ二番目の記録。四〇〇人目と四五〇人目の人に管理員の宮本アサエさん(かしまま)の陶器の記念品が贈られた。

管理員のメモから、東京の人北海太郎(びんり)熊が多い東京に帰ったら吉前の人館者料館をPRしてあげると言っていた。

郷土資料館三、大館者四五〇人越すことこの人館者は四五七三人、資料館オウソンの年に次ぐ二番目の記録。四〇〇人目と四五〇人目の人に管理員の宮本アサエさん(かしまま)の陶器の記念品が贈られた。

郷土資料館三、大館者四五〇人越すことこの人館者は四五七三人、資料館オウソンの年に次ぐ二番目の記録。四〇〇人目と四五〇人目の人に管理員の宮本アサエさん(かしまま)の陶器の記念品が贈られた。

郷土資料館三、大館者四五〇人越すことこの人館者は四五七三人、資料館オウソンの年に次ぐ二番目の記録。四〇〇人目と四五〇人目の人に管理員の宮本アサエさん(かしまま)の陶器の記念品が贈られた。

郷土資料館三、大館者四五〇人越すことこの人館者は四五七三人、資料館オウソンの年に次ぐ二番目の記録。四〇〇人目と四五〇人目の人に管理員の宮本アサエさん(かしまま)の陶器の記念品が贈られた。

### 観音像に関して

吉前に移すにあたり、福山・江差の人々の寄付由緒書帳面あり、その中に「佛工運慶之作」の語句あり。

### 金室院の創立に関して

万延元年、癸申四月十日、出羽庄内藩の祈禱所として創立。

羽後田利郡中ノ村吉祥院宗仙三男栄山が着任、明治五年六月、真言宗となる(醍醐派)。

観音像に関する新たな事実や古文書は発見されなかったが、各古文書の詳細なる調査を継続実施することにより、更なる事実が判明するものと期待される。(中略)

—松岡—

●那須、勝浦から来た男の人「五年前にも来たが今年で二回目、また五年後に来るけど管理員さんも元気でね」と手を振って帰って行った。

●札幌から来た人「今年は春夏秋と三回来た。また冬に来たいと言ったが「明ますます」でいいよ」と言った。

●最後の入館者は江別市からの夫婦であった。